

# 第11回久留島武彦顕彰 全国語りべ大会 【講評】

【審査員】 島田 稔

部 別	講 評
一 般 の 部	<p>総じて、お上手な方ばかりだったと感心しております。 34人中9人が、これだけのレベルとスキルをお持ちならば、予選通過ならずの方も、十分な力量を備えていると思います。 中でも上位の3人は、言葉の明瞭さや勢い、リズムもよく、最優秀の現代童話の語りべは、新鮮味も加わって御自分の語りとして完成されていました。 古い民話はそれなりの親しみがあり、新しい童話は展開への興味を増して、それぞれが選び、読み込んだ成果と思います。 小学生の部とも共通しますが、文中での掛け声、合いの手、囃し言葉は、かなり重要な意味を持ちます。御自分のものとされている方もいれば、「うるさい」と感じるものもあり、その差が評価に表れました。</p>
小 学 生 の 部	<p>予選16人中の6人の最終審査は、全員女の子？と思わせる声質が多く、途中で男子と認識できたのは1人、本当は、半分の3人だったと伺いビックリ。声変りの不思議さと、貴重な時期なのだと改めて思わせられました。 話中の息つきや本、台本に合せての無理が、話を途切れさせたりして、その辺りのトレーニングを重ねていただきたい。 今回は聴衆の前でなく、「アガリ」の要素が少なかったので、両部ともノビノビとおやりになったと思います。ステージ復活に備えて、実力を蓄えて下さい。</p>